きずな

第18号

2020年8月

＜発　行＞
泉南市人権啓発
推 進 協 議 会

人権週間 市民の集い

１２月１日（日）、泉南市立文化ホールにおいて、“２０１９人権週間「市民の集い」”を開催しました。今回は全国的に広がっている「子ども食堂」をテーマに、第一部では、子ども食堂を運営している岡本工介さんによる講演。第二部では、なぜ今子ども食堂が必要とされているのかを子どもの視点から描いた映画『こどもしょくどう』を上映しました。
当日ご参加いただいた方に、感想をいただきました。

映画「こどもしょくどう」を見て

小学５年生のユウト、食堂を営む両親と妹と健やかな日々を過ごしていた。ぶっきらぼうだが心根の優しい少年だ。一方、幼馴染のタカシは母子家庭で、母親はわずかなお金を置いたまま殆ど家に戻ってくることは無く、ネグレクトの家庭だった。そんなタカシを心配したユウトの両親は食堂に招き、頻繁に夕食を振舞っていた。

ある日、ユウトとタカシは河原で父親と車上生活をしている姉妹のミチルとヒカルに出会う。あまりに彼女たちがかわいそうに思い、見かねたユウトは強引に実家の食堂へ連れて行き、二人にも食事を出して欲しいと両親にお願いする。久しぶりの温かいおいしいごはんに妹のヒカルは素直に喜び、姉のミチルは他人の哀れみを拒絶しているように見えた。そして数日後、姉妹の父親が二人を置いたまま姿を消し、ミチルたちは行き場をなくしてしまう。

「相対的貧困率」の高い現代日本。ボランティアを中心に立ち上がった「こども食堂」は２０００箇所に上ると聞く。

この映画は、ある家庭との出会いをきっかけに「こども食堂」が生まれるまでの過程を子どもたちの視点で描いている。

この映画で、幸せだったミチルの家庭が車中泊の生活に陥った背景には一切触れられていない。作者の意図としてそこには、もしかしたら明日は我が身、誰にでも起こり得る今の状況だと言いたいのかも知れない。

「こども食堂」が増えて喜ばしい一方、「こども食堂」に行く子どもは貧困家庭の子だという差別や、必要としているのに「こども食堂」に行けない子たちもいる。そうした課題にも目を向ける時期に来ているのではないだろうか。

「食べることは命、食べることはつながり、食べることはぬくもり・・・」俵万智さんの主題歌が胸に残った。

林　信好

【参加者の声】

◆地域がみんなで協力して、貧困の子どもたちを救っていくネットワークをつくっていくことが必要では。〝食べること〟はぬくもり、そこから生きていく力を人は得る、そういう仕組みを地域に！

◆もっと思いやりを持って人と接したいと思いました。人に支えられて生きていることを自覚し、人や物を大切にしたい。

◆今日の市民の集いが多くの大人が子どもの貧困を考える機会につながっていくと願っています。すべての人の大切な命・人権が守れる社会にしていきたいです。

◆自分の事だけでなく、自分の周囲（近所）の事にも目を向けていかなければいけないと考えさせられました。

40周年記念式典＆講演会

″じんけん″の大切さを伝える活動を続けて40年

10月11日（金）あいぴあ泉南において、「泉南市人権啓発推進協議会設立 40 周年記念式典＆講演会」が開催されました。

本協議会は、昭和５４年１２月８日に設立され、令和元年度には４０年という節目を迎えることから、１０月１１日に記念式典を開催しました。

第１部の記念式典では、最近１０年間の活動報告をまとめたスライドショーを上映し、第２部の座談会では、本協議会メンバーの活動を通じての思いや今後の活動などについて語り合いました。第１部・第２部を通して、本協議会の活動を知っていただくとともに、人権を身近なものに感じていただく機会になりました。

第２部　座談会の様子

第３部では、落語家の林家染太さんを講師にお迎えし、「林家染太の人権講演＆落語～笑う門には福来たる！～」というタイトルで記念講演が行われました。

講師：林家染太さん

学生時代にいじめにあい自殺を考えたことがあるという自身の経験を踏まえ、「いのちの大切さ」などについて熱く語られました。

自身の人生をハリガネを使った折れ線グラフで表現しながら、「もしあの時自殺をしていたら私の人生はここで終了。そこから現在までに何度も訪れる楽しい・幸せな時間を過ごすことができずに終わってしまっていた。だから、絶対に自殺をしてはいけない。」という講師の熱い想いは、参加者の心に非常に深く刻まれたのではないかと思います。

その後に披露された落語や南京玉すだれでは、講演での雰囲気とはがらりと変わって、終始和やかな雰囲気で観客を楽しませていただき、会場は非常に盛り上がりを見せる中、講演会は終了しました。

【参加者の声】

◇スライドショーでの活動報告は、数多くの活動をされてこられたことがわかりました。笑顔がよかったです。

◇５人の方の人権についての意識をお伺いして、やはり長年人権啓発推進協議会に属しているので、意識が高いと思いました。人権とはおもいやりの心、そのとおりだと思います。

◇いじめ、差別について考えることが出来てよかったです。本当にいじめについて、皆が考えなければならないと再認識しました。

◇笑いあり涙ありの楽しい講演でした。話の中に「いじめ」の当事者としての話は重いものがありましたが、そこから立ち上がってきたことを聞いて大人として勇気を持つことの大切さも学びました。いい時間が過ごせました。

◇人権啓発！一番わかりやすかった。声が大きく、心に響く話だった。皆に聞かせてあげたい！学校の先生、母親、子ども達に！こんなに楽しく、ためになった話、ありがたかったです。

泉南市人権啓発推進協議会のメンバーと一緒に活動しませんか？

泉南市人権啓発推進協議会では、映画・講演会・コンサートなどの事業を実施し、市民の皆様に“じんけん”の大切さを知ってもらうため活動しています。また、より一層地域に密着した啓発活動を行えるよう８つの校区の人権啓発推進協議会を設立し、各校区で様々な啓発活動を実施しています。

一人ひとりが尊重される人権文化豊かなまちづくりを目指し、私たちと一緒に活動しませんか。興味のある方は、電話（480-2855）・FAX（482-0075）・メール（jinken@city.sennan.lg.jp）で事務局（泉南市人権推進課）までご連絡ください。

校区の集い

校区人権協では、小学校区単位で地域に根ざした人権啓発活動を行っています。毎年、それぞれの校区で小学校やＰＴＡと協力し、「校区の集い」を開催しています。令和元年度は、砂川校区他４校区において、スティールパン奏者の釣千賀子（つりちかこ）さんをお迎えし、演奏とお話を聴きました。

爽やかな秋晴れとなった１０月２３日（水）砂川小学校で、砂川校区人権啓発講演会が行われました。本年度は、釣千賀子さんをお迎えして「カリブ海からの音色～スティールパンとわたし～」の講演ライブをしていただきました。

トリニダード・トバゴからやってきた、ドラム缶から作られたスティールパンの誕生には、悲しい過去がありましたが、楽器の音色は軽やかで楽しく、皆を元気にさせる力がありました。

小学校の頃、引きこもりだった釣さん。そんな自分が嫌いで変わろうと思ったこと、そして、今では元気いっぱいのおしゃべりお姉さん。今悩んでいても、辛いことは長くは続かないよ、変わろうと思えば変われるよ、と明るくお話してくださいました。

スティールパン演奏は、子どもたちがよく知っているディズニーやアニメソングで、終始手拍子と笑顔が絶えませんでした。数人の子どもたちも演奏体験させていただき、最後の曲ではステージから観覧席まで、歌とダンスで大盛り上がりでした。１時間ほどの講演ライブでしたが、体いっぱい元気をいただけました。釣さん、ありがとうございました。

（令和元年度
砂川小学校ＰＴＡ会長）
杉本　美和

つながり vol.7

このコーナーでは、日ごろ何気ない生活の中で、人権が感じられたり、ふっと温かな気持ちになるエピソードを紹介します。

垣根を越えて
～隣の町から　こんにちは～

皆さま、こんにちは。私は隣の田尻町の人権擁護委員の豊田三枝子と申します。

人権の啓発活動やボランティアの活動を勉強しようと、この１年せっせと泉南市にかよっています。

まず驚いたのは４月の〝ＡＢＣまつり〟でした。多くのボランティア団体や学校の活動の披露や模擬店などがあり、駐車場は満杯で他府県ナンバーの車も多くありました。実は私も舞台でペルーの太鼓（カホン）を仲間とともに演奏しました。

カホン

とても楽しく〝ＡＢＣまつり〟が２０年近くも続いている理由が分かりました。

その一方で、わが人権擁護委員の啓発ブースはあまり人気がなく淋しいものでした。「もっと多くの人に来てもらえるように工夫を！」と思っていたら、やりました！１１月の〝交流センターまつり〟。いじめは許さないというテーマの子ども向けの紙芝居を人権擁護委員さんたちがＤＶＤに編集し、声優は勿論委員たち、派手派手な舞台も委員の手作り。市長さん、教育長さんも来られて、チンドン屋さんと歌ったり。私も楽しい時を過ごしました。

イオンモールりんくう泉南で行われた〝ボッチャ体験〟。障がいを持った人と健常者がともにボッチャを楽しむという企画ですが、当日入口で呼びかけたら５０人余りの人が参加してくれました。球を投げることが、障がいを持つ人にとっていかに集中力と体力を要するかがよくわかりました。（でも一番旨かった！）そして自分とボッチャの関わりを一生懸命に伝えてくれました。なんだか心がずっと近くなったような気がしました。

以上３つの体験はすべて「楽しい」ものでした。ここに活動の原点があると思います。これからも、泉南市の行事のときにチラチラとお目にかかると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（田尻町人権擁護委員）
豊田　三枝子

人権週間・人権作品展・コンサート

～今年もたくさんの出会いがありました～

本年度も人権週間（12 月 4 日～10 日）にちなんで様々な事業を行いました。

【人権作品展】

11月19日～11月24日、イオンモールりんくう泉南イオンホールにて、市内の保育園所、認定こども園、幼稚園、小・中学校の子どもたちのポスター、習字、絵画、市民の方々にご応募いただいた「じんけん写真・標語」や、識字教室のみなさんの作品などを紹介した人権作品展を行いました。

期間中は1，200名の方々にご来場いただきました。認定こども園の園児たちが、担任の先生やクラスの友達と一緒に見に来てくれました。また、休日は子どもたちが、家族や友人などと一緒に来られ、会場中の絵の中から自分の絵を探して紹介するなど、多くの世代を通して人権の大切さを感じる機会となりました。

〈参加者の声〉

◆子どもたちの作品よくできています。みんなと力を合わせて絆を広げてほしいです。

◆いつも子どもたちの作品に力をもらいます。

◆よい展覧会だと思います。多くの人に来てほしいです。

【みんなのカフェ「ボッチャを体験しよう」】

11月24日（日）には、同会場にて、ボッチャ体験会を開催しました。

ボッチャとはジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに赤・青のそれぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うスポーツで、東京パラリンピックの正式競技です。

泉南市在住のボッチャ選手2名と一緒に、子どもから大人まで約50名の方が競技を楽しみました。

〈参加者の声〉

◆誰でも楽しめるスポーツだと思った。

◆すごく楽しく、子どももボッチャを楽しんでいました。

◆思ったより難しく、ねらったところにボールが行きませんでした。選手の方はすごく上手に投げられていて感心しました。

子どもの権利条例モニター会議

知っていますか？ 子どもの権利条例モニター制度

子どもの権利条例市民モニター制度とは、「泉南市子どもの権利に関する条例」がどんなふうに実践されているかを子どもと大人が一緒になって検証する仕組みです。

8月2日の第一回は、子どもたちが学校・家庭・地域でどれだけ意見を言えているかについて、12月26日の第2回目は、子どもの権利の日の広報について、話し合いました。

参加した子どもたちからは「いろんなことを話し合えたり知れたりしたのですごくよかった」「もっと地域のことについて話し合いたい」、大人たちからは「中学生の生の声を聞けて良かった」「子どもと地域のつながりをもっと深めていきたい」といった声がありました。

みなさんも市民モニターになって、子どもの権利について考えてみませんか。

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大により、会議を開催することができず、発刊が遅れて申し訳ありません。日常生活の制約を強いられながらも、編集委員一同がようやく集まることができ、この度「きずな新聞 18 号」を発刊することができました。

「きずな新聞」を通じて、少しでもみなさんと交流を持ち、ご意見・ご感想をいただければ幸いです。

これからも編集委員一同なお一層研鑽を積み重ね、よりよい新聞づくりに励みますので、これからもご指導・ご協力のほど、よろしくお願いします。

（企画委員会　編集委員）

発行／泉南市人権啓発推進協議会　住所：泉南市樽井9－16－2（市民交流センター）　電話番号：072－480－2855